



大和証券グループの重要課題

持続可能な社会と大和証券グループ

現代の社会は、温暖化に代表される人類の生存を脅かす地球規模の環境問題や、南北間の貧富の差の拡大、日本国内では少子高齢化など、持続可能性が危惧されるさまざまな問題を抱えています。これらは、公共機関や企業、市民などすべての主体が責任を持って行動していかなければ解決できない課題です。

社会全体に影響を持つ企業が、持続可能な社会の実現

が可能かどうかを左右するキープレイヤーとなるなかで、とりわけお金を扱う金融機関は、本業である金融の機能を通じた社会的使命を担っています。それは、公正で活力のある金融市場を維持・発展させていくことに加え、金融に社会的な視点を組み込み、持続可能な社会の実現に向けた資金の流れをつくっていくことです。大和証券グループが、そのために担う役割は大きいと考えます。

大和証券グループの重要課題

当報告書は、大和証券グループを取り巻くステークホルダーの意思決定に大きな影響を及ぼすと考えられる事項について、重点的に報告することを目的としています。そのため、大和証

券グループのさまざまな活動による経済・環境・社会への影響についての検討を行い、報告すべき重要課題の特定を行いました。

1 投資に社会的視点を(P.9-12)

持続可能な社会の実現に向け、金融機関としての社会的役割を果たしていくため「投資に社会的視点を組み込む」という行動を、証券ビジネスのなかに組み入れて実行していくことが重要です。大和証券グループはその考えのもと、UNEP FI*1およびPRI*2、CDP*3に署名しています。

2 健全な証券市場の発展に向けた取組み(P.13-16)

証券業に携わる企業として、健全で信頼できる証券市場を維持・発展させるという責務を果たすため、単なる法令遵守にとどまらない、社会からの信頼に応えるコンプライアンスの徹底が重要であると認識しています。

3 地球環境への取組み(P.17-19)

地球環境問題はすべての企業・個人が取り組まなくてはならない課題であるとの認識のもと、大和証券グループは、自らの事業による環境負荷の低減に加え、環境問題の解決に向けてできる限りの協力・働きかけを行います。

4 持続可能な社会に向けた情報発信(P.20-24)

証券業で培った知識やノウハウを還元する経済・金融教育や、産学連携、持続可能性についての最新の情報提供など、情報を取り扱う企業の特性を活かした活動を継続します。

また、大和証券グループの経営の基本方針として、従業員が「働きがい」を感じて十分な力を発揮できるような取組みを重視しています。この点につきましてはトップメッセージ(P.1-2)と「人の尊重と人材の活用」(P.37-40)等をご参照ください。

*1 UNEP FI(国連環境計画・金融イニシアティブ):国連機関である国連環境計画(UNEP)と世界各国の金融機関のパートナーシップ。

*2 PRI(責任投資原則):機関投資家が、投資において企業の環境・社会・ガバナンス(ESG)の側面を考慮することを示したガイドライン。

*3 CDP(カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト):気候変動問題に関心をもつ機関投資家が連携し、投資家や経営者に環境問題に対する姿勢や取組みに関する情報開示を求めるプロジェクト。

▶ **WEB参照** UNEP FI, PRI, CDP

重要課題の特定プロセス

重要課題を特定するため、まず、今までに寄せられたステークホルダーの声、具体的には、従業員アンケート、お客様満足度調査、持続可能性報告書アンケート、株主アンケート、ステークホルダーコメントおよびダイアログ、外部有識者の意見などであげられた項目を整理しました。これらの項目に、CSRに関する国際的な潮流、GRIガイドラインなど、社会からの要請事

項を加えて、大和証券グループのCSR活動において考慮すべき課題を抽出しました。これと同時に、抽出の頻度や社会への影響度合いなどを考慮し、社外・社内において認識される課題の重要性を検証しました。こうした過程を経て、重要性が高くて高いと認識される4項目を大和証券グループの重要課題としました。

大和証券グループのステークホルダー

